

(12) 教育学における学士力の考察

CCC教育学運営委員会は、21年6月、7月、11月の3回開催した。教育学分野では、教職を目指す教育に限定せず幅広い領域を想定し、学校教育、社会教育、家庭教育、地域教育などの視点で教育の課題を捉え、問題の整理・分析・提案に力を発揮できることを踏まえ検討した。その上でサイバーFD研究員298人に意見を求め、27人(9%)からの意見を踏まえて、以下の最終案を決定した。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

※ 教職課程にとどまらない教育学の幅広い領域を想定し、検討したものである。

【到達目標1】

学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に説明できる。

【到達度】

- ① 「学ぶ」ということについて、以下の段階で論理的に説明することができる。
 - (A) 自らの体験(教育体験、教育を受けた体験の両方)から「学ぶ」ことの自分なりの意義を具体的に説明できる。
 - (B) ①で行われた「学び」に関する学問的な裏付けを、教育学に関する様々な文献や資料を用いて論理的、分析的に説明できる。さらに、過去の教育実践や教育思想に学び、教育の現代的課題への教訓として用いることができる。
 - (C) 自らが所属する(もしくは今後所属する予定の)集団にとっての意義のある「学び」というのはどういったものを論理的に説明できる。(企業、学校など個人々々によってそれぞれの集団がある)
- ② 学びの意義、教育の必要性を他者に伝えることができる。
- ③ 自ら学ぶ力(課題解決力)を有している

【到達目標2】

実態に応じた学びを教育としてデザイン(設計、実施、評価、改善)できる。

【到達度】

- ① 学習者の意欲、能力などを多面的、客観的に把握することができる。
- ② 学習者の実態に即した学習目標や学習方法のデザインについて論理的に説明できる。
- ③ 学習を効果的に進めるために、教育指導の理論と技術を活用できる。
- ④ 学習過程で他者の意見を聴き、自らの実践を反省し、改善案を作成することができる。

【到達目標3】

直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。

【到達度】

- ① 教育に関する時事問題について常に関心を持っている。
- ② 地域社会、グローバル化等広い視点から教育問題を理解し、分析できる。
- ③ 現代の教育課題について自分の考えを示すことができる。

【到達目標4】

教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる。

【到達度】

- ① 日々の生活において教育学を学んだものとしての自負を持ち、学び続けることができる。
- ② どのような職種においても教育の重要性を踏まえて社会生活を営むことができる。

(12) 教育学教育における情報教育

CCC教育学運営委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討では、教育を設計・実施・評価・改善するために情報通信機器を用いた情報検索、情報の信頼性の識別、プレゼンテーション、統計ソフトを用いたシミュレーションの体験、個人情報保護への配慮と情報管理などをとりあげた。

【到達目標1】

学びの意義と教育の必要性を理解するために、ICT機器を用いて文献検索や資料収集をおこない、その結果を整理・分析できる。

【到達度】

- ① 情報検索ツールを用いて必要とする文献や情報を検索し、その信憑性を検討できる。
- ② 他者の意見（引用文献等）と自己の意見を明確に区分して表記できる。
- ③ 基本的なソフトウェア（文書作成、表計算、作図）を用いて、論文作成やプレゼンテーション等が行える。

【教育内容・教育方法】

- ①は、講義・演習の中で情報検索方法や著作権・知的財産所有権等について触れ、具体的に情報機器を用いて情報検索をさせる。
- ②と③は、Web検索や資料検索等によって得たデータをもとに、基本的なソフトウェアを用いてレポートやプレゼンテーション資料を作成させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、適切なキーワードを思いつき、データベースや辞書・事典を活用し、その際に、信憑性の吟味や著作権への配慮を行っているのかを成果物もしくはプレゼンテーションで確認する。

【到達目標2】

教育をデザイン（設計、実施、評価、改善）するために、情報通信技術を活用して、調査・集計・分析等ができる。

【到達度】

- ① 目標設定や学習者の実態の把握のために必要な情報を、ICT機器を用いて調査・集計できる。
- ② 集計した情報を表計算・統計ソフトを用いて分析・評価できる。
- ③ 収集した情報および教育実践記録などの文字・映像情報のデータベース化を行い、適切に管理できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、電子メールやWebを用いた調査法に関する講義を行い、課題研究を通じて、実際に調査を体験させる。
- ②は、ICT機器を用いた統計手法を講義などにより学ばせ、実際にシミュレーションなどを通じて、結果の妥当性を検証させる。
- ③は、データベース化に必要な基礎知識を講義・演習などにより学ばせ、個人情報保護に配慮して教育情報を管理させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①から③は、学生の学習ポートフォリオを用いて、確認する。